# より良き介護の未来を求めて

一般社団法人　新潟県介護支援専門員協会　広報誌

Vol.07

MAY 2020

令和2年5月発行

# 響希（ひびき）

CONTENTS ≫

松田理事あいさつ …… 2
私の心に残る支援「こころ」…… 3
ブロック活動報告 …… 4・5
利用者と歩む …… 6・7
お知らせ・編集後記 …… 8

GREETING WORDS

# 世界は変わってしまった

新潟県介護支援専門員協会理事
新潟県介護老人保健施設協会副会長
**松田　由紀夫**

新型コロナウイルスの感染が止まらない。中国は武漢で新型コロナウイルスによる感染症発生から1カ月、グローバリズムに乗ってウイルスはアジア・全世界へと広がり、3月にはパンデミック宣言がなされた。感染者数と死亡者数の爆発的な増加は世界中をパニックに陥れ、「ヒト、モノ、カネ」の動きが止まった。世界は変わってしまった。この影響がいつまで続くのか、日本社会、医療・介護の世界にも大きな変化が起こるだろう。新型コロナウイルス感染症は重症化率が高く、死亡率も高い。救命には多くの医療資源・医療費用がかかる。経済の悪化により年金財政や介護保険、医療保険は維持することが厳しくなるかもしれない。世界各国間の人の移動が制限されることは介護人材の不足を外国人で補うことが出来なくなることでもある。

介護保険は2000年に介護の社会化、介護からの女性の解放を旗印に開始された。制度が出来た時には内容が十分に整備されておらず、「走りながら考える」と説明されていたが、改定の度に制度はより細かく、提出書類が多くなった。当初、介護老人保健施設の施設サービス費は入所者：看護・介護職員は3.6：1と3：1の2種類であった。5年後に3：1のみとなり、その後に個室、夜勤職員などの配置加算、リハビリテーション加算等がつき現在は10種類となっている、高齢化の進行と利用者の重度化に対応して改定されたともいえるが、看護・介護職員の人員配置については考慮がされてこなかった。法律で規定された看護・介護職員の3：1配置では業務がこなせない為、多くの介護保険施設では2：1配置となっている。（平成29年度の常勤換算看護・介護職員：在所者数では介護老人福祉施設2:1、介護老人保健施設2.1:1）。しかし、サービス費は3:1のままであり、施設側（2：1）では3人分ではなく2人分のサービス費から1人分の給与を払うことになる。つまり1人分の給与は34%も少なくなるとも言えよう。他業種と遜色のない給与を払えるだけのサービス費が支給されないのだ。このことはとても重要なことである。厚生労働省も介護業界も職員の給与が低くなることを容認しているとも言えよう。このままでいいのでしょうか。政府は対策として介護職員処遇改善加算を支給していますが根本解決には程遠いものです。ケアマネジャーに対しても公務員でないにもかかわらず同様に公平性や質の向上等を求めており、経済的援助や保障はない。直近の改定でもケアプラン作成費が認められませんでした。関係書類の作成やサービスの質の向上を求め続け、現場を見ない厚生労働省や学者、専門家といわれる人々、自分のことしか考えない家族や利用者に翻弄される日々。現場で働く人々の善意やボランティア精神に頼った政策では限界がある。巷では働き方改革や生産効率の向上ということが叫ばれているが、今後は介護の労働の現状を踏まえ介護サービスのレベルを下げることも必要なのかもしれません。新潟県介護支援専門員協会は会員の資質向上や交流を主目的に活動を行って来ました。これからは職能団体として多くの会員と共に会員の生活の安定維持のための活動も必要なのではないでしょうか。

# 私の心に残る支援
# 「こころ」

新潟市地域包括支援センター石山
**櫻井　馨** さん

私の心に残る支援は20年位前に担当させて頂いたA様です。

当時、私は居宅介護支援事業所と在宅介護支援センターを兼務しており、「介護保険を利用するかわからないが、在宅介護支援センターで扱うケースです」と病院より連絡を受けました。

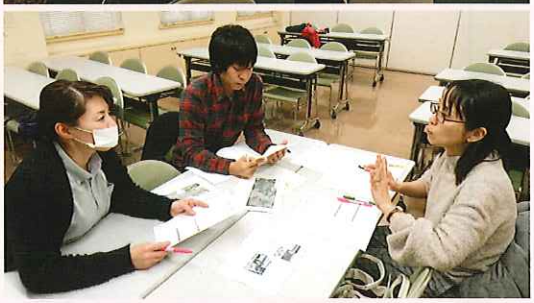
A様は公営住宅におひとりでお住まいの80歳女性。胃がん・心筋梗塞・認知症と診断され、夫と長男を亡くし、宗教に入信するも破門。近隣の関係者とも不和で、親族との交流もなし。生計は年金収入のみで、光熱費、健康保険など滞納状態。勿論、始まったばかりの介護保険など利用する気もなく、一年かけて信頼関係を築き、ようやく利用に繋げた方でした。

初回の訪問時、廊下は初雪のようにほこりが積もり、トイレは汚れ、洗濯機には汚れた衣類が詰め込まれていました。部屋は質素なつくりの部屋に大型TVが2台あり、とても違和感がありました。退院後、日を重ねると嫌がらせのチラシが扉一面に張られ、ガスの元栓を勝手に止められたことも。支援する時には①情報収集と関係構築②医療や行政との連携③困窮支援④家族の再構築⑤身寄り無⑥孤立⑦宗教の協力など、様々なキーワードが考えられ、多方面からのアプローチが必要なケースでした。

生活が破綻する中、疾病を発症し、身体状態・認知判断力が徐々に低下する方の支援は、まだまだ経験の浅い私にとって経済・医療・後見・看取りと様々な取り組みを学ぶ機会となり、感謝しかありませんし、未熟な共依存的な観念や支援者の中の傲慢な視点、適切な判断を支える支援など、私の中の課題も見いだすことができました。「この歳になっても、入信しても、死ぬのは怖いのよ」と話される淋しそうな笑顔が印象的でした。いろいろな要素の課題、力を見立てる、予後予測とチーム（繋がり）協働。支援とは何か…未だに迷い、学びの必要性を思い知る未熟な自分。時を重ねた今でも、時々あの笑顔を思い出しています。

# ブロック活動報告

## 1st BLOCK 第1ブロック活動報告



利用者の想いって、
本人の言葉で確認するのが大事だよね！

今年度は、会員拡大や多職種連携を目的とした研修開催に努めました。

10月6日に胎内市にて、NPO法人メイアイヘルプユーの鳥海房枝先生をお呼びし、「リスクマネジメント」について、事故報告に何を記録すべきか？要因分析方法、再発予防に向けた見直しなど、実例を通して学びました。質疑応答時には個々の案件にもご助言いただき、参加者からは貴重な機会となったとの声も聞かれました。

また、2回シリーズの事例検討は、昨年度同様に社会福祉士会との共催で計画しました。1回目は11月30日新発田市で実施。12名と少数の参加でしたが、助言者の柳沼裕子主任介護支援専門員より、本人や家族の言葉での意向確認の大切さなどポイントを解説いただき、活発な意見交換が図れました。2回目は3月7日の予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大を懸念し、急遽中止となり、大変残念です。

アンケートに、「医療・介護・障がい」を包括的に考える取り組みをテーマに学びたいとの希望があり、次年度の課題として検討していきます。

第1ブロック理事 居宅介護支援事業所いわくすの里 時田 喜雄

## 2nd BLOCK 第2ブロック活動報告

「撮りまーす」パシャッ！

第2ブロックの活動方針である、関係団体や行政との連携に主眼を置き、地域のニーズに基づく研修会や交流会を開催しています。

新潟市では、各区から協力して下さる窓口会員と理事と共に、年度計画を作成。①5/31（金）「介護支援専門員が災害に備えておくこと」講師：角屋宗敬総務委員長　②9/24（火）「ケアプラン作成について」講師：実務研修指導者石田浩二氏、日沼泰子氏、「ケアプラン点検について」講師：新潟市介護保険課職員　③10/11（金）「おいしく楽しく安全に」講師：新潟県栄養士会栄養ケアステーション牧野玲子氏　④10/25（金）懇親会を開催しました。

佐渡市では、10/24（金）講師：田中保雄副会長「施設ケアマネジメントについて」研修会・懇親会を開催しました。

新潟市でも佐渡市でも、懇親会では、おいしいお酒や料理を囲みながら、会員同士、楽しく交流することが出来ました。

これからも、会員の皆様の声を基に活動を行っていきたいと思います。ご協力をお願い致します。

第2ブロック理事 居宅介護支援事業者 介護老人保健施設ケアポートすなやま 真壁 泰子

## 3rd BLOCK 第3ブロック活動報告

頭しか見えませんが、参加者は皆、真剣な表情です

今年度、第3ブロックでは地区介護支援専門員協議会や連絡会と研修を行ったほか、単独で2回の研修会を企画しました。

そのうち、3月13日に企画した「相談援助職の記録の書き方」研修会は、新型コロナウイルスによる影響のため延期とさせていただきました。楽しみにしておられる方が多く大変残念でしたが、日を改めて開催する予定ですので、ぜひご出席ください。

もう一つは令和2年2月15日（土）に、厚生労働省老健局総務課課長補佐（社会・援護局地域福祉課併任　地域共生社会推進室併任）の石井義恭氏をお招きし「地域包括ケアと地域共生社会」というタイトルで2時間ほどお話しいただきました。地域共生社会の中でケアマネジャーが果たすべき役割だけでなく、次回の介護報酬改正に向け議論されていることなども分かりやすくお話いただきました。

そして夜は恒例の講師を囲んでの懇親会。居酒屋に始まり2次会のカラオケへ。若いケアマネは講師宿泊ホテルでの4次会まで行ったそうです。こういった交流も大事だよなぁと感じた夜でした。

第3ブロック理事
三条市社会福祉協議会
石附 克也

## 4th BLOCK 第4ブロック活動報告

力を合わせてがんばりましょう！

第4ブロックでは「学ぶことが支えになり、つながることが力になり、つくることが明日を拓く」を念頭において活動を行っています。

今年度は、昨年に引き続き「事例検討会のすすめ方」の研修をはじめ、初めての試みとして施設に勤める介護支援専門員を対象にした研修会を開催しました。いずれの研修会も来年度も開催の希望が寄せられるなどの大きな反響を得ました。とりわけ施設介護支援専門員の方からは、学びの機会のみならずネットワークづくりへの要望が多く聞かれました。

より充実したブロック活動を行うには会員による自立的な取組が不可欠であるとの考えから、会員参加型の活動体制づくりにも着手し始めました。現在、10名の会員がブロック運営に協力しています。

成果と同時にまだまだ取り組むべき課題があるブロック活動です。来年度も会員のみなさんの力が集まる機会をつくり、充実した活動に向けて取り組んでいきたいと思います。

第4ブロック理事
在宅介護支援センター堀之内
角屋 宗敬

## 5th BLOCK 第5ブロック活動報告

笑顔さわやか

講師：吉崎利生氏

令和元年度はホワイトボード・ミーティング®認定講師マスターの吉崎利生氏を講師としてお迎えし、介護現場に欠かせないアセスメント技術を楽しく学びました。

人の行動には必ず理由や背景があり、それが分かると対応プランが見えてくることをグループワーク中心に理論的にお話しいただき、参加者は楽しく納得した表情で、3時間という長時間の研修でも足りないくらい内容が濃く、まだまだ聞きたいという声が聞こえてきた有意義な研修会となりました。

次年度も5ブロック地域の皆様が参加したいと思える研修や活動を企画していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

第5ブロック理事
能生地域包括支援センター
星野 貴博

# 利用者と歩む

今回のテーマ

## 私のリフレッシュ方法

仕事をしていると、悩みやストレスを抱えてしまうもの。今は新型コロナウイルス感染症の影響で、いつも以上に神経を使う毎日になっていますね。

利用者に寄り添い、ともに歩むためには、ストレスは大敵。

今回は、会員の皆さんのリフレッシュする方法について、各ブロックの広報部員がお伺いしました。

## 悩み・ストレス

### 忙しい

**仕事や家事、子育てに追われる毎日です。**

- 日頃は色々なことで悩みながら業務を行っていてストレスもあります。
- ケアマネをして2年たちますが、業務がスムーズに行えず、もっと手際よく事務仕事が行えたら…と思います。
- なかなか定時で帰れません。時間と書類に追われてしまい、ストレスがたまります。もっと上手に時間を使えたら…。
- 日々の業務に追われること。期日が迫ってくるとドキドキします。このストレスに関しては、その業務が終わらなければ、解消はできません(笑)。なので、一生懸命に取り組んでいきたいと思います。

### 人間関係

**伝われ、想い。**

- プランを作って現場の職員に説明して実施をお願いしても、業務に押されてプランの実施がうまくできていない状況が多いと感じてしまう。
  ご本人の生活にはプランの実施の重要性が現場の職員にうまく理解して貰えていないのか?重要性をきちんと伝えて実施して貰えない自身の力不足を感じる。
- 介護現場での仕事とケアマネとしての仕事の両立。
- ケアマネとしての考え方と現場としての考え方の住み分けが難しい。現場の職員の苦労や忙しさも分かるし、目標を達成するための取組の実施も重要なので、気持ちが交錯してしまう。どちらの立場にも立って仕事をしなければならない難しさを感じている。
- 施設ケアマネとして5年。すぐにチームでケアができるメリットもありますが、専門職の意見を取りまとめる大変さがあります。利用者主体のケアができるように、私自身が冷静かつ穏やかに業務をこなす事が大事だと思っています。

**利用者さんや家族との関係が上手に築けないときにストレスを感じます。**

- 私がストレスとして感じることは、ご本人とご家族の思いに相違があり、ご家族の意向がとても強く、ご説明してもなかなかご理解が得られないときでしょうか。ふぅ〜、と社用車に乗るとため息が出ることもあります。

### 苦手

**医療連携が苦手です。**

- 心配事はすぐに同僚に話して解決し、ストレスをためないように心がけています。
- まだ経験が少ないこともあって計画書がうまく作れません。
- 的確に目標を導き出して短期と長期の目標をきちんと設定できているか不安だし、家族の想いや意見に押しきられて、本人の意向をうまく取り入れられていないんじゃないかと思ってしまう。

# リフレッシュ方法

## ひとりじかん

- 週1回のヨガとサウナです。汗をかくとスッキリ! 休日は計画的に過ごせるのに、仕事となると難しいですね。力量が足りないって事ですね(笑)。（第4ブロック 30代女性）
- おいしいコーヒーを飲むことと、いい香りのする入浴剤を使ってゆっくりお風呂に入ることで癒されます。（第5ブロック 30代女性）
- 外食や少し高級なチョコを食べて気分転換をします。（第5ブロック 40代女性）
- 深呼吸して少し散歩をしたり、本を読んだり、一人の時間を楽しみ、翌日に持ち込まないようによく眠るようにもして、切り替えをしています。（第5ブロック 30代男性）

## ドライブ

- 目的地を決めずにドライブに出かけて、気ままに車を走らせることです。いつも考えている頭を休ませて着の身着のまま出かけることで、精神的にリラックスできます。そこでおいしいものでも見つかれば、なお良しですかね!（第1ブロック 40代男性）
- 休日に遠出をすることです。美しい風景や珍しい建造物を見たり、その土地の名物を味わったりして癒されています。（第2ブロック 40代女性）

## おうちしごと

- 休日に、思いっきり掃除すると気分がすっきりします。無心にやれるのがいいのだと思います。あとはよく食べ、よく寝ることです。（第2ブロック 40代女性）
- 草取りです。やった分だけ成果が見えるから気分爽快になります。また、めだかの飼育です。特にめだかは独自の鮮やかな模様が出てくるのが楽しみの一つです。（第2ブロック 50代男性）

## 音楽

- 出退勤時、車に乗ったら好きな音楽をかけて気持ちの切り替えをしています。1年に数回、ライブに参戦して発散しています。音楽が私のストレス解消になっています。（第4ブロック 40代女性）
- 好きなアーティストのライブに行くこと! 休みがとれれば、県内外問わず出かけて弾けてきます。見ていると自然と大きな声も出るし、身体も動きます。心身ともにリフレッシュできて、家庭でも職場でもまた頑張ろうという気持ちになれます!（第1ブロック 40代女性）

## 家族や仲間と

- 自宅に帰ると大好きな家族やワン子ちゃんに癒され、明日の活力となっています。（第3ブロック 40代女性）
- 休みの日に子供とおもいっきり遊ぶこと! 自然と笑顔になって活力を貰えます。（第1ブロック 30代女性）
- 美味しいものを食べること!!家族や友人と共に、美味しいものを食べに回っています(^_-)-☆だからこそ、明日へのエネルギーになります。（第3ブロック 50代女性）
- 普段は、自分の時間を大切にして、有意義に過ごしています。ちなみに自分時間とは、街へ出て飲みに行くことです。そこにはたくさんの仲間がいるからです。（第3ブロック 30代男性）

## それでもがんばる

仕事に対して、私が苦手とする精神疾患の方への支援は、とてもエネルギーを使います。私自身の充電が思いっきり吸われてしまうこともあります。対応方法など、これからも習得していかなければなりません。それでも、ケアマネを続けていかれる理由としては、新たな出会いがあるからです。ご利用者やご家族との新たな出会いは、私の中での財産となっています。これからも、一生懸命、学び得ていきたいと思います。ちなみに、毎日の晩酌は欠かせません(笑)

（第3ブロック 40代女性）

みなさんのリフレッシュ方法はいかがでしたか?
明けない夜はありません。硬くなった気持ちと体を癒し、やわらかな気分で厳しい時間を乗り越えていきましょう。

## 広報委員会からのお知らせ

### あなたの写真で、響希の表紙を飾りませんか?

・『響希』は、今号より紙面をリニューアルしました。

会員のみなさんが撮影した写真で本誌表紙を飾っていただき、多くの方に携わっていただけたらと考えています。あなたの素敵な1枚をお待ちしています。

(詳細は各ブロックの広報委員、または事務局までお問い合わせください)

## 事務局からのお知らせ

◎令和2年度年会費の口座振替日は、**6月1日(月)**です。

前営業日までにご登録口座へのご準備をお願いします。

◎6月25日開催の令和2年度定時社員総会で、新理事・委員による新体制が決まります。

詳細は響希Vol.8でお知らせします。

◎新型コロナウイルス感染症対応により、法定研修、協会主催研修は予定を一部変更しています。

変更後の年間予定表を同封しましたので、ご確認ください。

(※研修の変更については、当協会HPにおいても、随時お知らせします。)

## 編 集 後 記

広報誌『響希』7号が完成しました。
ご寄稿・写真撮影・インタビューへのご協力、感謝申し上げます。

4月7日、政府は新型コロナウイルス感染拡大予防で7都府県に緊急事態宣言、16日には全国に広げ、外出の自粛等を強く呼び掛けています。

私は自身がウイルスに感染している可能性があると想定し、利用者を訪問する際には、事前に『利用者の安全、生命を脅かすことが考えられます』と説明をしてから業務を行っています。

今こそ日本全体が一丸となって感染拡大の防止に取り組み、一日も早く、安心で生活し易い世の中になるよう願っています。

江東園粟山　神沢

松田理事
事業所の皆さんと
ランチのひととき


お問い合わせ

一般社団法人 新潟県介護支援専門員協会

〒950-0994 新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号　新潟ユニゾンプラザ3階

TEL 025-281-5616　FAX 025-282-5151

MAIL office@caremanager-niigata.jp　HP https://www.caremanager-niigata.com


表紙について

撮影者:神沢　秋夫(第2ブロック)　撮影地:福島潟(新潟市北区)

・黄金色の菜の花に吸い込まれて行くと、春を感じる自然がいっぱいありました。孫と一緒に撮影。(孫、黄色がいっぱいと言いながら、手には菜の花が!コラ!!)